

令和 3（2021）年度
外部評価委員による評価結果
（基準 3 教育課程）

I. 評価者

所属・役職 京都光華女子大学キャリア形成学部 教授
氏名 酒井 浩二

II. 基準 3 全体の総評

1. 全体評価

全体的に「自己判定」が高めであり、「評価部会の評価」も若干高めである。貴学は、第 1 期 5 か年計画（2013-2017）、第 2 期 5 か年計画（2018-2022）を全学的に推進され、長期的な自己点検評価の実績がある。第 1 期および第 2 期 5 か年計画の報告書を再度参照のうえ、貴学の強みや改善点を振り返り、自己点検評価報告書に添付しきれていないエビデンス資料がないか確認のうえ、エビデンス資料を的確に把握して自己点検報告書の加筆修正が望ましい。実際には取組実態があるものの、自己点検評価報告書に記載しきれていない内容が多くあると推察できる。

「(2)所見」「(3)評価部会からの助言・指摘事項」の記載内容が的確である。これらを該当の学部・部署が認識し、全学的に共有して改善に向けて推進が重要である。

2. 自己点検評価の視点

自己点検評価の視点として、以下の 2 つをさらに加えると良い。

(1)教育課程を受けた学生の変容：全体的に、記載内容の視点が教学組織の取組中心で、学生の学習成果の視点が少ない。「基準 3. 教育課程」は、提供する教職員の推進の記載はもちろん重要だが、同様に、学生が教育課程を受けた効果を評価して推進の適切性・厳密性を確認して今後の改善につなげる記載も重要になる。

(2)教育課程を受けた学生の経年効果：教育課程を受けた 4 年間ないし 5 年間の経年効果の視点が少ない。適切性、効果、厳密性の評価・検証において、基準項目によっては経年効果の視点も入れるのが良い。

3. 記載の内容・方法の留意点

以下の 4 点を改善が良い。

(1)全基準項目の統合的な評価：3-1-①から 3-2-②の計 10 個は連動した基準項目であるが、記載された内容は連携が見えにくい。全基準項目を統合的に評価のうえ記載が望ましい。

(2)ポリシー間の連携：3 ポリシーの連携が見えにくい。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの一貫性が特に重要である。アセスメント・ポリシー策定の検討過

程で、各学部および全学的な議論と共有が重要である。

(3)PDCA の A の記載：多くの IR データが収集・分析・評価、フィードバックされているが、改善の記載が少なく、自己点検評価に基づく PDCA サイクルが見えにくい。

(4)他大学の報告書の参照：外国語学研究科は、多くの基準項目で「評価の視点に関わる自己判定の留意点」と対象外の内容が記載されている。留意点を完全に満たした記載が必要である。大学も含め、他大学の自己点検評価報告書を参考にするのも良い。

4. 補足

以下は補足です。

(1)組織的な意思決定過程が見えにくい。自己点検評価報告書 p.98 ではじめて組織図が示されているが、基準 3 の章でも適切な箇所で組織図を入れて説明が良い。

(2)エビデンス資料で、ページ数の多い資料（学生便覧など）は該当のページ番号を記載が良い。